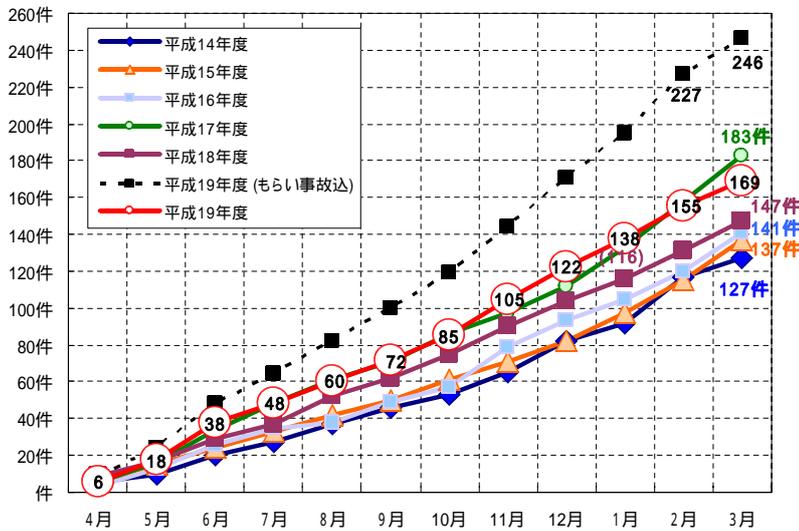


平成19年度 直轄請負工事の事故発生状況

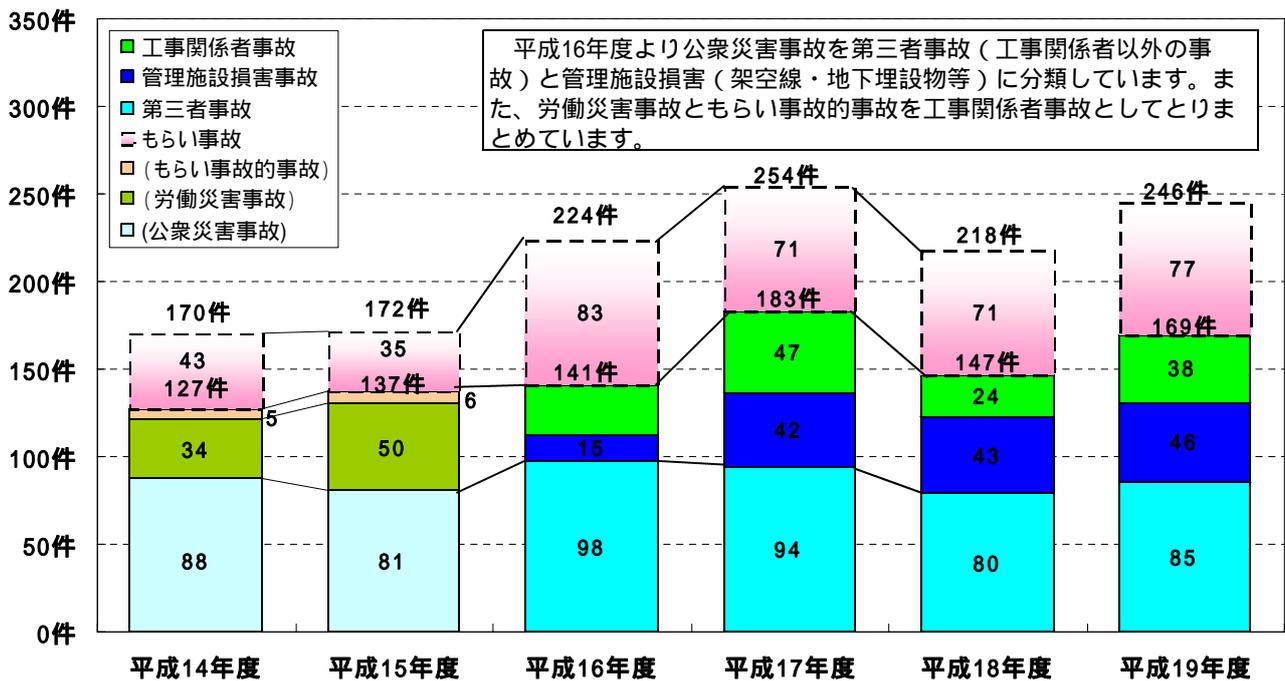


平成19年度における発生事故件数は、図-1の月別発生事故件数(累計)のとおり、169件でした。

もらい事故を含めると、246件となっています。

前年度(平成18年度)の年間発生事故件数147件(もらい事故含まない)を上回る結果となりました。

図-1 月別発生事故件数(累計) [4月末速報値]



平成16年度より公衆災害事故を第三者事故(工事関係者以外の事故)と管理施設損害(架空線・地下埋設物等)に分類しています。また、労働災害事故ともらい事故的の事故を工事関係者事故としてとりまとめています。

図-2 事故種類別

事故種類別(図-2)については、工事等が起因し工事関係者が被災した事故 工事関係者事故、第三者及び管理施設に損害を与えた事故 第三者損害事故 及び 管理施設損害事故、第三者が起因して工事関係者が損害を受けた事故 もらい事故 に区分しています。

工事関係者事故 については、38件となっており、前年度(平成18年度)の24件から増加しています。

第三者損害事故 と 管理施設損害事故 を併せた値が131件となり、昨年度の123件から増加しています。

もらい事故 は77件発生し、全体の約3割を占めていますが、前年度(平成18年度)の71件から増加しています。

以下の図(図-3, -4, -5, -6)は、第三者が起因して工事関係者が被害を受けた"もらい事故"による事故件数及び被災者数は含んでいません。

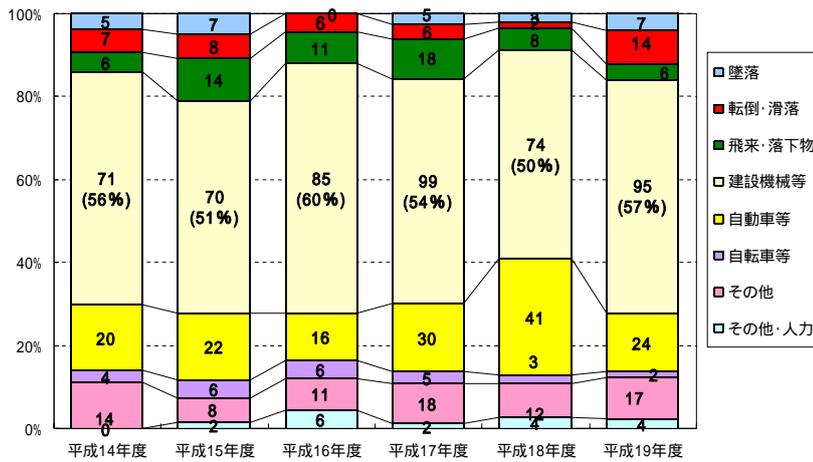


図-3 事故分類別

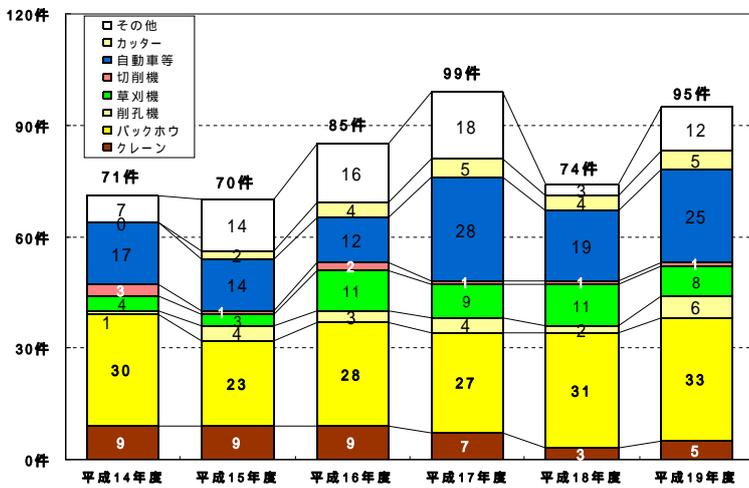


図-4 建設機械分類別

事故分類別(図-3)では、バックホウやクレーンなどの"建設機械等"が関係した事故の割合が毎年増加傾向を示しています。平成19年度については95件の事故が発生し、全体の約6割を占める結果となっています。

建設機械分類別(図-4)では、ダンプトラック、連絡車等(官用車含む)を含む"工事関係車両"及び"バックホウ"が関係した事故が前年度より増加しています。

主な事故内容は"工事関係車両"による工事現場や駐車場等への出入の際の接触事故や、"バックホウ"による架空線等の接触事故となっています。主な要因として、当事者の不注意が考えられますので、請負業者は、下記の自動車等の事故防止対策(案)を参考に、注意・指導して下さい。

[自動車等の事故防止対策(案)]
 "だらう"運転、漫然や脇見運転等を防止する為に、現道上の安全運転を遵守させること。
 日頃の健康管理を徹底すること。
 映像による危険・予知訓練等を徹底すること。

平成19年度に発生した事故(169件)により、46人が被災しています。その内、負傷者は44人、死亡者は2人となっています。(図-5、6参照)

被災者数及び重傷者数は、前年度(平成18年度)までと比較すると増加しています。(図-5参照)

平成20年度についても引き続き、請負業者は、下記の事故防止対策(案)を参考に、注意・指導して下さい。

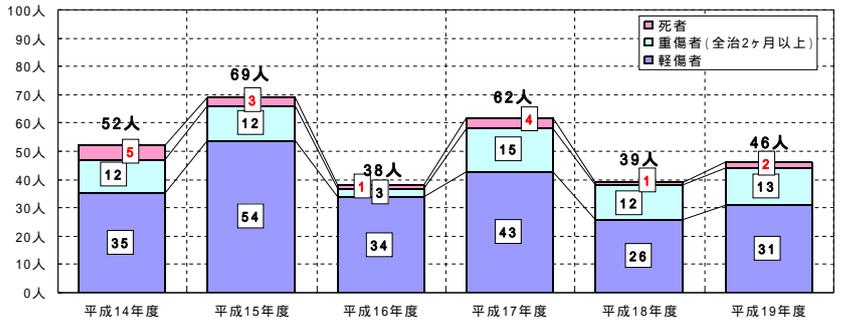


図-5 被災者数経年変化

[事故防止対策(案)]
 指示事項の遵守
 責任者監視の元での作業の徹底
 安全パトロール・安全点検の徹底
 危険・予知訓練等の徹底
 作業員同士での注意喚起

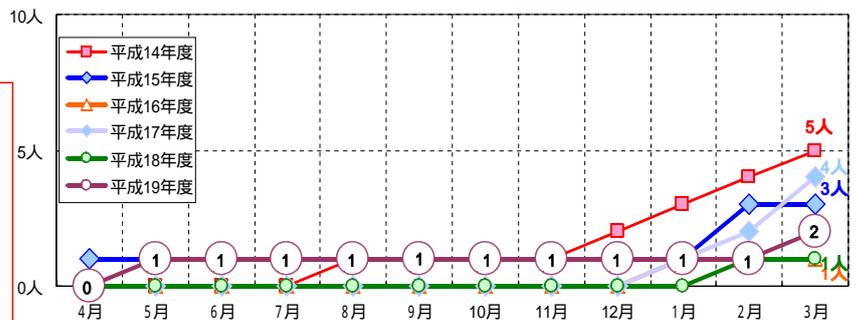


図-6 月別死者数(累計)

運転事故を防止して事故の無い現場を目指そう!!